

情 報 公 開 文 書

研究の名称	がん治療の支持療法薬の処方状況および臨床効果に対する検討
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学学術研究部医学系臨床腫瘍学 梶浦新也
研究の概要	<p>【研究対象者】 当院にて2011年4月1日から2031年3月31日まで、がん治療中に、その症状緩和に支持療法薬が使用された症例全ての症例</p> <p>【研究の目的・意義】 がん治療において、症状緩和目的の支持療法薬の投与は重要です。積極的治療の選択肢については、ガイドラインなどを参考にしながら、最新の医学知識を用いてその選択を行います。その一方で支持療法においては、積極的治療の選択ほどには意識が向きにくい場合があります。我々の施設では、支持療法において緩和ケアチームに相談頂き処方を支えています。また緩和ケアマニュアルを用いてその処方を支えています。支持療法薬も日々進化していますが、どのような症例にどのような支持療法薬が投与され、どのような効果が得られているかの網羅的な検討の報告はほとんどありません。支持療法薬にも有害事象があり、それらが、原疾患の治療に影響を与える因子を検討する必要があり本研究を立案しました。当施設は、がん治療の支持療法についてのリーダー的役割を果たしており、この詳細な検討は当施設が全国に先駆けて行うべきであると考えています。</p> <p>【研究の方法】 当院にてがん治療中に、その症状緩和に支持療法薬が使用された症例について、カルテ情報を元に処方状況を調査をします</p> <p>【研究期間】 実施許可日から2031年3月31日まで</p> <p>【研究結果の公表の方法】 研究結果は日本緩和医療学会学術大会などの関連する学会で発表します。また臨床腫瘍学会誌などの国際的な英文誌に投稿して公表します。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	今回の研究に用いる試料はありません。情報の項目は年齢、性別、診療科、支持療法薬の種類、薬剤開始時の外来/入院の区分、原疾患(原疾患のがん・非がん)、処方量、処方理由、処方開始日、処方中止日、処方中止理由、薬剤師介入の有無、薬剤の効果の有無、併用薬(積極的抗がん剤治療の有無) 有害事象などの発現状況です。主な評価項目は非オピオイド鎮痛投与日数で、支持療法薬の効果(効果ありと判断された症例の割合、効果ありの判定については1週間後を目安とした疼痛改善の有無で決定します)などの評価項目と、年齢、性別、診療科、薬剤開始時の外来/入院の区分、原疾患(がん・非がん)、支持療法薬の種類、処方量、処方理由、処方中止理由、薬剤師介入の有無、併用薬(積極的抗がん剤治療の有無) 緩和ケアチーム介入の有無、介入内容などの背景因子との関連を統計学的に解析します。他機関への情報提供はありません。
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山大学附属病院 病院長 林 篤志
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。

試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	情報の管理責任者：富山大学学術研究部医学系臨床腫瘍学 梶浦新也 研究主機関における研究責任者：富山大学学術研究部医学系臨床腫瘍学 梶浦新也
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。 電話 076-434-7808 FAX 076-434-5112 E-mail shin-ya@nsknet.or.jp 担当者所属・氏名 富山大学学術研究部医学系臨床腫瘍学 梶浦新也